

# 月刊 中東レポート

第48号

発行 ウニタ書舗  
 東京都千代田区神田神保町1-52  
 TEL (03) 291-5533  
 編集 J.R.A.  
 郵便振替 東京1-48443  
 三菱銀行神保町支店 当座9012656  
 会員制 年会費20000円

## 目次

和平の流れに逆行するイスラエル

資料① アピール

資料② 蜂起

資料③ レバノン危機

資料④ ブッシュ書簡

重要日誌

(一九八九年六月一日～七月一〇日)

20 19 18 17 15 9 1

中東の緊張を高めている。

## 一 非妥協性強めるパレスチナ蜂起

七月九日で、蜂起は、二〇カ月めに入った。

今月の特徴は、「イスラエル政府和平イニシアチブ」(以後、「イニシアチブ」とする)の発展以降、危機感を深めてきた極右シオニストが「和平」＝「政府解決」の流れを阻止するために巻返しを行い、リクード連合中央委員会において、四項目の付帯事項を決定させたことである。それは、「イニシアチブ」を骨抜きにし、パレスチナ・アラブへの領土的譲歩につながらないものにしたことを意味する。

極右シオニストの危機感、不満をあおる前段として、「鉄製の武器で攻撃された場合に入植者の発砲許可を与える」とする宗教右翼の側の要求が、退けられた。極右シオニストは、軍の蜂起鎮圧をなまぬるとして、事あるごとにパレスチナ人の村や町を襲撃し、焼き討ちをかけ、それを拒否する流れが、敵の側から作り出され、ては、政府、軍に規制されていた。参謀長官が、

和平の流れに逆行するイスラエル

アラブ総体が、カサブランカ・サミットで、アラブ・イスラエル紛争の政治解決を承認して以降、イスラエルでは、「イスラエル政府和平

対応は、「和平実現」に対する人種主義、領土拡張主義のシオニストの本質をあからさまに示すものである。

イニシアチブ」をめぐる右翼シオニストの危機感が高まっていった。それは、七月五日のリクード連合中央委員会の四項目の付帯事項可決として現われていた。

その翌日、ガザのパレスチナ人青年が、バス攻撃決闘を行った。そして、この闘争を契機として、極右シオニストは、パレスチナ人に對するテロを拡大した。それは、極右シオニストの絶望的な抵抗であった。右翼シオニストの

また、レバノンにおいては、国際的な支持をうけたアラブ・イニシアチブによる停戦調停の努力が行われているが、東西ベイルートの砲撃戦は、いつこうに鎮静化しない。むしろ、東ベイルート＝イラク側のアラブ・イニシアチブへの挑戦という姿が明らかになっており、シリア

とイラクの戦争に發展しかねない状況に悪化した。総体が政治解決という流れに向かうなかで、それを拒否する流れが、敵の側から作り出され、ては、政府、軍に規制されていた。参謀長官が、

否定して票決にもちこみから、腹ち目がたいの  
を読み、この要求に合意した。

労働党は、このリクードの決定に反発し、連立解消を検討するという事態になった。ペレスは、「和平過程に關して、国家利益ではなく、党派利益を優先させることになつてゐる。殘念だ。……和平過程に、重い手錠がはめられた」と、第一声をあげた。そして、五月の「イニシアチブ」合意段階では、エルサレムのアラブ人の選挙権、恒久的解決段階における領土上の譲歩を含むか否かなどの点は、規定しないという確認だったのに、シャミルが、右派の圧力に屈した点を、批判した。この四項目のおかげで、「イニシアチブ」に、アラブが乗つてこないことが、保証されてしまった、としている。

シャミルは、四項目の改変は、リクード・ベルの問題であり、政府、国会が承認した「イニシアチブ」を正式に改変する必要はない、と苦しい答弁を行つた。

このイニシアチブの詳細を確かめるため、選挙一交渉過程を開始するために、イニシアチブを受け入れ、イスラエルとの交渉に入るべきである。ベーカーの即応性とは対照的に、ブッシュ自身は、不快の念を表明しつつ、米国政府代表団を即派遣することには賛成しなかった。前出の国務省談話発表が六日であったが、結局、派遣を見合わせることになったのは、そのためである。米帝としては、PLOの民族解放主体としての性格を去勢し、蜂起終決を目標にした交渉を続け、「選挙」策動にのせようとしてきたいたのが、水泡に帰すからである。

四項目の付帯事項は、どんな穏健派も、認めることができない内容である。これを受け入れたら、キャンプ・デービッドよりも、悪いものとなる。また、アラブ反動も、四項目の付帯事項を認めたうえでは、PLOに、受け入れるようにもちかけることもできない。この付帯事項

この「イニシアチブ」の発表自身は、パレスチナ側の平和イニシアチブが引き出したものであつた。シャーミル政権が、一貫して領土的譲歩を拒否してきたことに対し、PLOが、昨年の一月のPNC以来、和平イニシアチブとして、二つの国家として解決していく方向を推進してきた。これに対して、国際世論の支持がPLOに集まり、米帝がPLOと対話するという現実の中で、孤立の打開、蜂起の解体を目的にイスラエルがうちだしたものでしかない。シャルミルは、三週間の折衝の後に、この付帯事項を

この四項目には、米帝も反発した。折しも ASEAN 拡大外相会議でブルネイ訪問中のベニカーニー国務長官は、国務省の代表团を送りこんで、イスラエル政府の真意を確かめるとの方針を出した。また、国務省スポーツマンは、次のような談話を発表した。「党派色を出した宣言、とくに、中東和平過程をより規制したり、条件をつけたりするようなものは、和平過程を前進させることにならない。イスラエル政府イニシアチブは、ブッシュ大統領も承認したものであり、和平過程にむけては、最も、現実的な

1989年9月30日 第48号 月刊 中東レポート

「実力で蜂起解体するには、ジエノサイドしか  
ない」と発言したことがある。軍内部での分解  
の進行現象として、極右シオニスト兵が、指揮官の指揮に従わず、「軍紀」違反の連続、それへの「軍法会議」、処分のサイクルが報告されている。指揮無視だけでなく、「軍紀」通りにやろうとする指揮官が、部隊からつまはじきにあうということもある。そして、初めて公表された数字では、動員された予備役の年間自殺者が三五人にのぼることである。ちなみに八二年のレバノン侵略当時、イスラエル軍内部で麻薬、精神障害などが蔓延し、蜂起鎮圧の中で、指揮無視は、国家にとって重大問題である。

極右シオニストは、政府の経済政策にも、不満を持っていた。入植村、被占領地の「開発モデル都市」への投資が少ないのである。かつては、農業が主産業であった入植キャンペーンは現在、「開発モデル都市」建設として、先端工業の下部構造を作り、それを軸に、被占領地の経済構造を再編しようとしている矢先である。すでに、被占領地の土地の五〇%以上はシオニストの所有下に組み込まれたが、イスラエル政府は、米帝との矛盾を拡大しないために、入植地拡大を控えている。むしろ、四八年ライン内部の経済再編を優先させているし、キブツ、モシャブなどの再編も進めようとしている。赤字経営のキブツへの援助もしぶっていいる段階である。蜂起の鎮圧費用、観光産業の頭打ち、被占領地からの税金收入の激減、被占領地への輸出

の激減等、低賃金労働力を失った以上の打撃を受けていた。さらに、インフレ、失業など、今までの生活レベルの維持が困難になつていて、この不満が、前回の総選挙で、右翼の伸張を保証してきていた。そして、その問題は、解決されるどころか、悪化している。

そして、六月一八日に入植者が刺殺される事件が起つた。三人のパレスチナ人が逮捕されたが、極右シオニストは、葬儀に参列したシャミルにつかみかかり、投石した。この事件以来極右シオニストと軍の確執は、悪化した。たとえば、軍の側は、入植者所持のライフルの再登録に相当するライフル検査を行おうとしたが、極右シオニストの側は、被占領地の行進キャンペーンを対置し、結局、軍の側はライフル検査を止め、行進キャンペーンも軍と協力することを打ち着いた。この行進キャンペーンは、被占領地を、「イスラエルの地」と規定して、デモをする意味があった。パレスチナ人民への挑戦であった。そして、シャミルは、アリエル入植村の入植者の葬式後、イスラエル企業家の会合で約束した通り、西岸（中央軍管区に含まれる）、ガザ（南部軍管区に含まれる）の司令官を「リベラル」派から強硬派に代えた。

こうして、極右シオニストの圧力から、シオニスト軍もいつそう強硬な弾圧に乗り出した。それには、人民委員会、攻撃部隊メンバーの大量検挙キャンペーンがあげられる。先月は、ガザでのハマス集中検挙があつたが、その政策を継承したものとして、今月は、西岸の活動家が大

量検挙されている。次には、国際的に非難されている追放政策の再開である。現在、蜂起開始以降追放されたパレスチナ人は、五五人になった。こうしたことは、シオニスト軍が、極右シオニストの批判、圧力に對して、彼らを満足させねばならなかつたことを示している。これらの弾圧は、「イニシアチブ」と一体のものである。

また、レバノン南部に対しても、進攻作戦、爆撃、「セキュリティ・ゾーン」の拡大を行つている。とくに、レジスタンスを展開する勢力なかでもイスラム勢力を狙いうちにした爆撃が四回あつた。

「イニシアチブ」の趣旨は、米—PLO対話を止めさせ、国際和平會議の方向にいかせないようにするためである、とシャミルが説明しても、シャロン貿易産業相に代表される極右シオニストは、「領土的讓歩」につながるものとして反対していた。そして、七月五日のリクード連合中央委員会で、この「イニシアチブ」を骨抜きにする四項目の付帯事項をつけさせた。その四項目は、まず、「西岸、ガザを外国主権下に変換しない」、次に、「エルサレムのアラブ人には、選挙権はない」、そして、「選挙は蜂起終了後にしか行わない」、最後に、「入植村の拡大を行う」というものである。リクードの閣僚、国会議員は、この四項目を遵守せねばならないという点が、確認されていった。これでパレスチナ人の交渉そのものが成立しがたいものになつた。

強化を示した。しかし、シオニスト占領軍の弾圧強化と、極右シオニストによる無差別テロの拡大は、パレスチナ人民の怒りを激しいものにした。パレスチナ人民は、和平交渉への否定的立場を強め、シオニストの占領に対する闘争強化を求める事になつてゐる。したがつて、PLOが「政治解決」の方向を求めるのに対しして、領内人民は闘争強化を求めるので、必然的に矛盾が生じてゐることになる。「選挙」の本質がパレスチナ人民の民族自決を保証するものではないこと、極右シオニストによる人種主義的テロは、イスラエルとの妥協が何ももたらさないと感じさせているからである。

戦闘激化するレバノン情勢

イテク双方との関係をもつており、その影響力が期待されていた。

アウンは、「まず、大統領選挙から着手すべきである」という発言を行い（六月一一日）、「占領軍の首都への道は、今日から安全でなくなった」（六月一六日）と、エスカレートしていった。東ベイルート内部での孤立化を深めるアウンが、シリアに對してのみならず、マロン派議員、マロン派の宗教的権威であるビキルキとの対立も深めていった。そして、公然とアラブ・イニシアチブを否定する形で、イラクも、「シリア軍の撤退、大統領選挙、政治改革の順番で、解決すべき」と、二二日に態度表明した。これが、その二日前に、シリアのカッダム副大統領が明らかにした解決方法への挑戦として出されたものであることは、明らかであった。シリリア側が「アラブ・トロイカ」に提起していたのは、まず、治安の確立に向けた措置として、停戦を実行させる軍事委員会を東西ベイルートのレバノン軍が作る、停戦監視機能には、大型兵器の持ち込み監視も含む、次に、政治改革での一致を作り、最後に大統領選挙を行うというものであった。これは、カサブランカ・サミットで承認された方式であるし、この治安確立・停戦実現方式について、アラブ連盟特使イブラヒミが、東西ベイルート・ダマスカスをシャトル外交して回っていたのである。

アウンの側は、戦闘はレバノン・レベルの問題ではなく、レバノン対シリアの性質のものである以上、レバノン・シリア軍事委員会を設置

アラブ・イニシアチブとしては、停戦実現方策をアウンに拒絶されつも、六月二七日のオラン（アルジェリア）でのトロイカ・サミットで、レバノン国外での議会開催を提案した。アウンは、これをも一蹴し、交渉に応じない姿勢を示した。が、現実には、すでに六月下旬、マロン派枢機卿スファイルがバチカンを訪問した際に、ローマで、フセイニ国会議長と接触するなど、アウンの頭越しの交渉が進み始めた。

こうした膠着状況を開拓するべく、ソ連の動きがあった。レバノン問題をめぐるシリア対イラクの確執の悪化を憂慮したソ連は、ソ連第一副外相を七月一日にイラクに派遣し、「シリアが武器補給を止めるなら、イラクも、武器補給を止める」という発言をとりつけた。次に、サウジのジェッダでサウジ外相と会ったのち、二日には、シリアのアサド大統領との会談を行った。

シリアの側は、六月下旬から、レバノンへの武器補給中止を呼びかけていた。そして、ソ連第一副外相の訪問を受けた当日、トロイカ外相も、ダマスカス入りした。こうしたソ連、「アラブ・トロイカ」の調停を受けたレバノン民族派潮流は、ダマスカスに集まり、五日正午からの「一方的停戦実施」を宣言した（ただし、海上封鎖は継続するという条件がついていた）。ソ連、アラブ・イニシアチブの調停努力に応えていく姿勢が表明されたので、政治解決への道

され、対応に窮しているのが実情であろう。米帝の出方を待つていいだろ。

P L O の反応は、「和平過程への道を閉ざした」「シャミルが望んでいるのは、蜂起の抹殺和平過程の抹殺であることを、全世界の前に明らかにした」というものである。パレスチナ勢力内部では、政治解決を今進めるべきとする潮流（アラファト議長が代表している）と、讓歩（アラファト議長が代表している）と、すべきでないとする潮流（全土解放派や、領内の指導部）との矛盾が、この四項目の付帯事項によって、一時的に、緩和された形になつてゐる。四項目の内容をみれば、パレスチナ側が政治交渉に応じようと、応じまいと、入植活動の継続＝占領の永続が宣言されたのが明らかである以上、交渉への流れを押し止め、自らを国際的に孤立させることになつていて。

いずれにしろ、この極右シオニストの巻返しは、敵内部の矛盾を拡大したし、パレスチナ人民の怒りを拡大させる結果となつた。さらに、リクード中央委員会が四項目の付帯事項を決定した翌日に、テルアビブ－エルサレム高速バスへの決死闘争が行われた。バスの中で、ガザのパレスチナ人青年が、運転手に飛びかかり、ハンドルを奪つて、バスを道路脇の谷に転落させたのである。シオニスト、米国人観光客等一四人を死亡させた。

二〇カ月に及ぶ蜂起は、攻撃的な闘争に対する敵の大量殺戮、キャンペーン＝ジェノサイドを挑発しないように、防衛的な闘争へと戦術上の自己規制を行つて、持久性を作り出してきてい

た。そして、このバス攻撃決死闘争は、その段階を、一步前に進めることになった。しかも、武器を使わないで、素手で行われた。これは、シオニストを恐怖させるに十分であつたと同時に、闘争形態自身が、防御的な闘争の枠内で最大の攻撃的闘争であるがゆえに、シオニストによる「テロリスト」キャンペーンを難しくさせた。この闘争に関して、イスラミック・ジハドや、ファタハ革命評議会（アブ・ニダル派）が、責任を発表している。

闘争を行った二五歳の青年は、家族に対するシオニスト軍の蛮行への報復であると主張している。この青年は、何度も、このバスに乗って、攻撃のチャンスを窺い、最も効果的な地点、タイミングを選んだ。この闘争は、パレスチナ人民の不退転の決意、非妥協性を、敵にも、味方にも示した。

シオニストは、この決死闘争に対し、「無差別テロ」と、最大の非難を行つたが、米帝の反応は遅かった。とくに、リクード問題の翌日に起こったこと、在外のPLOも、「起こるべくして起こった事件。この元凶は、シャミルである」「当然の人間的反応」という対応を行つた。これまでPLO右派内部にあった「和平への流れを潰すような闘争」という批判ではなく、支持の態度を示した。そして、米帝は、事件から数日たつて、テロリズム規定を行つたが、これは、国際世論むけというより、イスラエル向けといえるだろう。国際世論からみれば、素手でのこの闘争は、パレスチナ人民のシオニスト

に対する当然の怒りとして映つており、そこまで追い詰めたシオニストの側の責任も、明確であつた。

シオニスト内部では、極右が、いち早く、パレスチナ人へのテロ報復に出た。七日の葬儀で極右のカハネは、「報復以外ない。アラブ人はただの一人も、この地には入れない。来させない」と演説した。葬儀にきたパレスチナ人は率いるカハ運動の三〇〇人が、騎馬警官と述べることもできずに、ボディ・ガードに守られて退散した。エルサレムの繁華街では、カハネの率いるカハ運動の三〇〇人が、騎馬警官ともみあつた。葬儀後は、パレスチナ人建設労働者をリンチしようとして、警官隊と衝突した。葬儀以降、極右シオニストは、パレスチナ人を襲撃し、負傷させた。パレスチナ人の車を引つ繰り返して、放火し、中の人間を焼く、路上でパレスチナ人とみれば白昼でもリンチする、投石するなど、極右シオニストの人種主義的本質をみせるテロを続けている。

PLOの側は、右派とされるアブ・シャリフ氏なども、「人間的反応である。責任は、シャルミルにある」との談話を発表した。PLOは、この機会を掴んで、米帝の「選挙」支持に歯止めをかけ、宙に浮いた形になつてゐる国際会議を復活させようとしている。それは、「米国が国際会議開催について、原則的に合意している」とするPLO執行委員アブド・ラッボの発言に見られるものである。

PLOは、リクードの決定が「選挙」の本質を暴露したとし、「選挙」を改めて否定する態

る地域で起こったアマル対ヒズボラの勢力の争いの解決を、イランとの協力を進めようとしている。ヒズボラが、イスラム共和国を展望した闘いを進めるとは、現在の政治焦点である停戦の実現、政治改革一大統領選挙という方向とつれていく。この流れを、反アウン統一戦線にヒズボラを組み込むことで、修正していくのが、課題とされよう。

そして、ホメイニ師の四〇日忌に向か、アマル、ヒズボラ代表がイラン訪問を行うなかで、政治方向の統一を作る努力を行うだろう。この訪問には、シーア派のほかに、ジュンブラット、PFLP-GC、アブ・ムサ派も同行している。

### 三 今後の展望

和平の流れに逆行する勢力として、極右シオニストの姿が浮かびあがっている。このリクードの四項目の付帯事項が、今後、さらに敵内部に分解をもたらすであろう。とくに、米帝は、シャミル「和平案」を現実的なものとして承認した以上、「和平過程」を進める方向を求めるだろう。

パレスチナ蜂起においては、バス決死闘争が切り開いた道が、今後の地平となっていくだろう。リクード中央委員会の四項目の付帯事項は、反占領の闘いの持続以外には、敵を妥協させることはできないということを、証明した。そして、非妥協に鬭うほど、敵の内部分解を促進し、矛盾を引き起こすことでも、明らかである。

「イニシアチブ」への付帯事項問題が、政治的には焦点となつたが、蜂起が日々占領当局に与えている経済的打撃が、イスラエル国論を二分する要素となつていて。リクード中央委員会開催の二日前に、イスラエルは、通貨の四・九%切り下げに踏み切つた。今年になって二回目の切り下げである。そして、七月に入つてからは、失業者が一三万人と報告され、前年度比四六%増の失業率を記録した。六月下旬に行われたユダヤ機関会議では、ソ連、アルゼンチンからの大量移民受け入れをどうするのか、討議している。しかし、失業率八・三%、インフレ率一六・五%、公共料金四〇%値上げ、消費者需要の落ち込みが三〇%、電力・ガソリン需要落ち込み七〇%という国に移民してくるユダヤ人が増えることはないだろう。さらには、極右シオニストは、入植村への援助拡大を要求している。

ラビン国防相は、蜂起鎮圧予算追加の二億五〇〇〇万ドルを要求したが、引き締め財政では、困難であるとされる。また、蜂起解決よりも、九二年のEC統合市場化への対応を第一に解決すべき、とする意見も出ている。

彼自身は、将来的に避けられないであろうリクードの分裂を見越し、右派のリーダーとなること、被占領地の入植地域のリーダーを展望しているとされる。シャロンに代表される極右シオニスト潮流は、大イスラエル主義を前面に押し出していくこと、それは、西岸、ガザの入植者にとっては、領土的妥協への道でしかない。

シーア派は、レバノン民族勢力の対東ベイルート海上封鎖、陸上からの軍事圧力という対峙陣型を強めるために、レバノン民族勢力が統括するべき、とする意見も出ている。

が開かれるのではないかという期待感が高まつていった。

さらに、七月四日から訪仏を開始したゴルバチョフ大統領は、ミッテラン大統領との第一回会談後、レバノンへの武器供給中止を共同でアピールした。こうして、ソ連の活発な外交展開から、シリア、イラク双方が、レバノンへの武器補給中止を宣言することになった。

しかし、ソ連の介入はあったものの、事態は好転しなかつた。東ベイルートへの武器搬入を防ぐために、民族主義勢力が海上封鎖を継続したため、戦闘はむしろ再燃したのである。イラクが、フロッギー・セミサイルを東ベイルートに導入するのを実力阻止するために、シリアもまた、海軍を派遣して、東ベイルート海域をパトロールしている。これに対して、アウンは、時代ものの空軍機を出して、挑発した。海上封鎖、海上パトロールを止めないなら、海戦、直接戦闘も辞さないと、強気の発言を繰り返している。こうしたアウンの強気な態度の裏に、イラクからの支持があることは、明白であろう。

ソ連の介入は、効果をあげていないが、ソ連としても、シリア、イラク双方を離反させたくないというところから、これ以上の介入は困難ということが、考えられる。

イスラエルは、シリア海軍の海上パトロールについて、「シリアの意図は、フロッギー・ミサイルの導入阻止にあるだろう。イスラエルも、同ミサイル導入を、歓迎しない。なぜなら、現在国内統一が問われている。そうしたイスラエル、キュリティ・ゾーンへの執拗なレジスタンス攻撃に反撃するためにも、大攻勢を行う可能性がある」とパレスチナ勢力は予測している。レバノン・パレスチナ勢力は、現在、この大攻勢に備えた警戒体制をとっている。南部、ベカ一ヘの偵察飛行は、日常茶飯事である。領内への戦闘の結果、レバノン南部のシオニスト占領軍の士気の低下は、著しい。たとえば、六月一二日には、ゲリラ掃討戦の最中、シオニスト軍の部隊同士が射ちあって、一名が死亡、二名が負傷するという不祥事を起こした。加えて、被占領地パレスチナでの蜂起の非妥協性である。内憂が高まるに、侵略して国論を外にむけ、統一するのがイスラエルの常套手段である。そこから考えると、レバノンへの再侵略は、可能性が高いともいいだろう。

だが、八一年のような規模ではやれないだろ

う。また、侵略したら、対イスラエルでのシリア、イラクの統一を作ることになるだろう。さらには、パレスチナ蜂起の継続によって、リクードの四項目付帯事項によつて、シリアの動きを承認するかのよう立場だが、その狙いは、シリアが國力を疲弊させることである。

イスラエルは、現在の国論の分解状況から、国内統一が問われている。そうしたイスラエル、イスラエルも、簡単に侵略できかねる状況に置かれているというのが、事実であろう。

ソ連の介入に比較して、米帝は、大きな動きがあるとパレスチナ勢力は予測している。レバノン・パレスチナ勢力は、現在、この大攻勢に備えた警戒体制をとっている。南部、ベカ一ヘの偵察飛行は、日常茶飯事である。領内への戦闘の結果、レバノン南部のシオニスト占領軍の士気の低下は、著しい。たとえば、六月一二日には、ゲリラ掃討戦の最中、シオニスト軍の部隊同士が射ちあって、一名が死亡、二名が負傷するという不祥事を起こした。加えて、被占領地パレスチナでの蜂起の非妥協性である。内憂が高まるに、侵略して国論を外にむけ、統一するのがイスラエルの常套手段である。そこから考えると、レバノンへの再侵略は、可能性が高いともいいだろう。

だが、八一年のような規模ではやれないだろ

う。また、侵略したら、対イスラエルでのシリア、イラクの統一を作ることになるだろう。さらには、パレスチナ蜂起の継続によって、リクードの四項目付帯事項によつて、シリアの動きを承認するかのよう立場だが、その狙いは、シリアが國力を疲弊させることである。

イスラエルは、現在の国論の分解状況から、国内統一が問われている。そうしたイスラエル、イスラエルも、簡単に侵略できかねる状況に置かれているというのが、事実であろう。

ソ連の介入に比較して、米帝は、大きな動きがあるとパレスチナ勢力は予測している。レバノン・パレスチナ勢力は、現在、この大攻勢に備えた警戒体制をとっている。南部、ベカ一ヘの偵察飛行は、日常茶飯事である。領内への戦闘の結果、レバノン南部のシオニスト占領軍の士気の低下は、著しい。たとえば、六月一二日には、ゲリラ掃討戦の最中、シオニスト軍の部隊同士が射ちあって、一名が死亡、二名が負傷するという不祥事を起こした。加えて、被占領地パレスチナでの蜂起の非妥協性である。内憂が高まるに、侵略して国論を外にむけ、統一するのがイスラエルの常套手段である。そこから考えると、レバノンへの再侵略は、可能性が高いともいいだろう。

だが、八一年のような規模ではやれないだろ

う。また、侵略したら、対イスラエルでのシリア、イラクの統一を作ることになるだろう。さらには、パレスチナ蜂起の継続によって、リクードの四項目付帯事項によつて、シリアの動きを承認するかのよう立場だが、その狙いは、シリアが國力を疲弊させることである。

イスラエルは、現在の国論の分解状況から、国内統一が問われている。そうしたイスラエル、イスラエルも、簡単に侵略できかねる状況に置かれているというのが、事実であろう。

ソ連の介入に比較して、米帝は、大きな動きがあるとパレスチナ勢力は予測している。レバノン・パレスチナ勢力は、現在、この大攻勢に備えた警戒体制をとっている。南部、ベカ一ヘの偵察飛行は、日常茶飯事である。領内への戦闘の結果、レバノン南部のシオニスト占領軍の士気の低下は、著しい。たとえば、六月一二日には、ゲリラ掃討戦の最中、シオニスト軍の部隊同士が射ちあって、一名が死亡、二名が負傷するという不祥事を起こした。加えて、被占領地パレスチナでの蜂起の非妥協性である。内憂が高まるに、侵略して国論を外にむけ、統一するのがイスラエルの常套手段である。そこから考えると、レバノンへの再侵略は、可能性が高いともいいだろう。

だが、八一年のような規模ではやれないだろ

う。また、侵略したら、対イスラエルでのシリア、イラクの統一を作ることになるだろう。さらには、パレスチナ蜂起の継続によって、リクードの四項目付帯事項によつて、シリアの動きを承認するかのよう立場だが、その狙いは、シリアが國力を疲弊させることである。

イスラエルは、現在の国論の分解状況から、国内統一が問われている。そうしたイスラエル、イスラエルも、簡単に侵略できかねる状況に置かれているというのが、事実であろう。

ソ連の介入に比較して、米帝は、大きな動きがあるとパレスチナ勢力は予測している。レバノン・パレスチナ勢力は、現在、この大攻勢に備えた警戒体制をとっている。南部、ベカ一ヘの偵察飛行は、日常茶飯事である。領内への戦闘の結果、レバノン南部のシオニスト占領軍の士気の低下は、著しい。たとえば、六月一二日には、ゲリラ掃討戦の最中、シオニスト軍の部隊同士が射ちあって、一名が死亡、二名が負傷するという不祥事を起こした。加えて、被占領地パレスチナでの蜂起の非妥協性である。内憂が高まるに、侵略して国論を外にむけ、統一のが

原理主義潮流の台頭にみられるように、生活レベルに至った再編期の矛盾に対して、今までとは違うあり方を要求している。それは、反動、民族主義進歩政権を問わない現象である。

中東においては、イスラエルもまた、これまでのあり方の再編が問われ、その再編を巡って、内部的矛盾が激化してきた。アラブ民族主義もこれまでのあり方では生存が困難になる中で、アラブ総体として中東和平、政治解決とアラブ経済ブロックの形成によって解決していく方向がどられてきている。

しかし、同時に、帝国主義とシオニストの支配に対する態度として妥協に至る分、矛盾を転嫁させられている人民は、いつそう、反帝・反シオニズムの意識と、闘いを強めざるをえない構造にある。蜂起は、その第一のものとしてアラブ・PLOのアラファト議長指導部、アラブ反動の動きを、規制している。蜂起の発展、そして、アラブ人民の立ち上がりは、現在、アラブ反動、シオニストの延命を許さず、アラブとユダヤ人の共存への道を開くものとなる。

PLOの政治展開は、国際的な世論を引きつけていくものとしては、一定成功してきているが、蜂起の闘いの強化へと結びつけるものとして、それらが展開されていかなければ、敵の罠にはまりこむ危険性を持つている。

レバノン問題もまた、旧体制の維持を計ろうとするキリスト教徒勢力と、それを支持するシオニスト、イラクに対して、体制改革を要求する民族主義勢力、それを支持するシリアとの闘

争としてある。カサブランカ・サミットで、政治解決の方向が定められたとはいえ、そこにある根本的な問題は、旧体制の宗派政治そのものの廃止に向かって進むのか、それとも、現状を維持したうえで政治改造へと進むのかという二つの道の闘争である。そこににおいては、軍事的な力関係、政治的な力関係が、重要な要素となっている。現在の戦闘は、東ベイルートの人民が、アウンを拒否することによってのみ、終了過程に至るだろう。

パレスチナ人民の皆さん、現在、我々は、大変重要な段階に到達している。敵シオニストは、蜂起を「政治的」に包摶しようと企む一方、残虐行為を強めている。敵が企んでいるのは、キャンプ・デービッドよりもっと悪い陰謀で、シヤミルとラビンが打ち出した「選挙路線」という名である。その狙いは、地方選挙をやらせて、PLOにかかる指導部をでっち上げ、五年間の「自治」政府を認めるとしている。だが、交渉の決定権を握っているのは、イスラエル側であり、明らかに、名目だけの「交渉」「自治」でしかない。

イスラエルは、残虐行為を強化しつつ、同時にこの陰謀を持ち出した。ラビンの蜂起対決姿勢が強まり、蜂起解体策動を強化している。これらは、我々を「選挙」に合意させるための手段である。最初に音を上げるのはシオニストか、それがとも、パレスチナ人民の側か、時間が証明するだろう。

シヤミルの陰謀は、「自治」策動、レー・ガン案、共同統治など、これまで出された多くの「解決案」同様、歴史のくず籠に捨てられる運命に世界、アラブ・レベルで、不退転の解放闘争、犠牲を甘受した闘いのみが、解決策を作るといふことが、認められている。

英雄的な人民の皆さん！

我々被占領地蜂起民族統一指導部（以下、統一指導部とする）は、PNC決議によるパレスチナ問題解決案を承認したアラブ・サミットに、感謝を表明する。そして、言葉だけではなく、行動で決議を実行するよう、呼びかける。

## アピール

### ① 民族統一指導部アピール四一號（抄訳）

#### 「対峙継続の呼びかけ」

資料①

うのが、米帝の基本路線である。

ブッシュ政権としては、パリ・サミットにもちこんで、先進国の支持を取り付けようとしていた矢先、リクード極右がもちだした付帯事項によつて、シャミルの「イニシアチブ」への支持を集めることができ困難となつた。そして、ブッシュは、イスラエルが「大イスラエル主義」追求を止めないことを非難せざるをえなくなつた。少なくとも、入植村を増やして、蜂起の激化をもたらし、イスラエルの国際的孤立を招くようなことは、避けようとするだろう。現在の米帝は、イスラエル関係をド拉斯ティックに変更する予測できない事態を招くであろう。

米帝は、中東でのソ連の影響力拡大の阻止を第一の戦略目標に置き、米帝の威信にかけても、極右シオニストの跳ね上がりを抑えこもうとするだろう。しかし、極右シオニストは、その孤立、絶望感からいっそ危険な策動を繰り返すであろうことは明確である。そして、それが現在の政治解決への方向を、再び戦争へと導きかねない状況に転化させる可能性を持っている。

パレスチナ指導勢力内部の分解も、また、深まるだろう。すでに、アラファト議長派は、スペインでPLO主催のパレスチナ・イスラエル会議を開催するなど、蜂起がかちとつた国際的支持を背景に、外交攻勢にでいる。PLO主催の会議に、公然と参加するイスラエル人が出ていること、これは、極右にさらなる危機感を与えるにはおかしいだろう。極右の付帯事項問題は、PLOにとっては、国際的に有利な展開

を保証するものとなろう。しかし、被占領地内の人民は、シオニスト占領軍、極右シオニストによるテロの拡大によって、いつそう激烈な対峙を強いられるうことになり、それは、シオニストとの妥協よりも対決を要求する声を拡大させることになる。これは、アラファト議長の路線に対する大きな統制力となっていくだろう。

レバノン問題は、どう発展するか？ 問題は、シリアの望まない解決方法は、成立しないといふことである。現在的には、戦闘は激化しているが、いずれカサブランカ・サミットで決定された方向に向かう以外ないだろう。それは、シリアの国家利害の尊重であつたし、レバノンに対するシリアの特別な関係の承認であった。

ここにおいても、ことレバノンに関して、シリアが非妥協な態度を貫いていることが、決定要因である。そして、政治改革と対の大統領選挙、中央合法権威の成立を展望するシリアは、合法権威成立後のシリア軍撤退の準備をも進めている。ミリシア政治の復活を行おうとする部分に対し、断固として反対しているのは、そのひとつ現われである。アウンの失墜は、時間の問題であろう。なぜなら、この将軍は、自己の権威の維持のため、マロン派総体を敵に回した形で、イラク、イスラエルに依存している。イラクにしても、イスラエルにしても、東ベイルート側に、アウンよりも、東ベイルートを統一して、民族派に抗対できる人材があれば、彼

に支えて、アウンの側が、自滅するのを促進するだろう。

アラブ民族主義勢力内部の矛盾は、敵を有利にするものであり、この矛盾の解決が問われている。イランもシリアとの関係を必要としており、現在の東ベイルート軍事包囲は、継続するだろう。

アラブ民族主義勢力が、イスラエルとの共存方

式である。アラブ民族主義勢力内部の矛盾は、敵を有利にするものであり、この矛盾の解決が問われて

いる。イランもシリアとの関係を必要としてお

り、仕方で、解決しようとしていくだろう。

味方の政治的妥協、国家レベルの緊張緩和に

対して、人民蜂起が、それを逆規制している。

アラブ民族主義勢力が、イスラエルとの共存方

式である。

シリアは、また、足元において、この間の戦闘の最中にアマルとヒズボラの戦闘が起こったのである。近く、ジャジャが出てくるだろ

うが、それは、アウンの失墜以降であろう。

家利害の尊重であつたし、レバノンに対するシ

アは、ヒズボラが、現在のレバノン

闘の最中にアマルとヒズボラの戦闘が起

ったのである。

シリアは、また、足元において、この間の戦

闘の最中にアマルとヒズボラの戦闘が起

ったのである。

シリアは、ヒズボラが、現在のレバノン

&lt;p

水しよう。そして、水道代も、節約しよう。水を灌漑に回そう。

11. パン屋の皆さんに、訴える。パンだけを売るようにしよう。（注①）

12. 商人委員会、経済委員会の皆さんに、訴える。値を釣り上げる商人に注意し、不当価格での販売がないようにしよう。

13. ガザで、まだ「民政」当局から辞任しているガザで、新「身分証」として強要しているのは、パレスチナ人である。即ち、シオニストの軍法会議に協力するのをやめよう。

14. ガザの皆さんに、訴える。外部からの干物資を、それと知らないで破壊することが起こっている。カンパ物資を、破壊しないようにしよう。

15. パレスチナ人弁護士の皆さんに、訴える。オニストの軍法会議に協力するのをやめよう。

統一指導部は、以下の行動予定に従って蜂起を闘うよう、皆さんに訴える。

六月一七日の土曜日は、ゼネストの日。国際会議によって中東紛争を解決するよう、米政府に圧力をかけよう。

六月一八日の日曜日と一九日の月曜日は、シオニスト軍、入植者に対する闘争を強化する日。ナイフ、火炎びんなどで、闘おう。

六月二〇日の火曜日は、ガザの労働者攻撃に抵抗して、ストを打とう。

六月二一日の水曜日から二七日の火曜日までは、闘争強化週間。シオニストへの攻撃を強化しよう。

六月二八日水曜日は、闘争を強化する日。エ

モ等、連帯行動を強化しよう。

そして、パレスチナ諸党派に対しても、PLO、統一指導部の下に団結するよう、呼びかけれる。

確かに、カサブランカ・サミット決議は、PLOが一貫して分裂してきた結果、パレスチナ人民は、この二〇年間苦悩してきたことである。今度は、決議を実行し、イスラエルの最大の友である米国への政治的経済的圧力をかけてほしい。

米国は、PLOとの接触レベルを上げ、対話をスティック・アップし、内実を作るべきである。これ以上の蜂起の拡大を止めさせたいのなら、米国は、PLOとの真剣な討議を行うべきだ。

パレスチナ人民の皆さん、民族の大義に忠実に闘おう。世界中の人民の権利を防衛しよう。そのため闘う人は、我々の同胞である。我々は、生活の困難に屈せず、植民地主義との闘いを堅持する。パレスチナ民族の当然の権利を回復するまで、闘う。

占領軍は、報復しているが、これは、狂犬病のように、自らを蝕んでいく。奴らには、指導者もなく、規律もない。パレスチナの町、村、キャンプを襲撃していくが、我々を怯ませることはできない。

シオニストは、労働現場でも、パレスチナ人労働者の賃金、食料を掠め取る。現在、「身分証」として強要しているのは、パレスチナ人

労働者を屈伏させるのが狙いだ。だが、我々は、民族の力を動員し、この後一年、二年、何年かかるとも闘い続け、蜂起をさらに根づかせる。

確かに、カサブランカ・サミット決議は、PLOが一貫して分裂してきた結果、パレスチナ人民は、この二〇年間苦悩してきたことである。今度は、決議を実行し、イスラエルの最大の友である米国への政治的経済的圧力をかけてほしい。

米国は、PLOとの接触レベルを上げ、対話をスティック・アップし、内実を作るべきである。これ以上の蜂起の拡大を止めさせたいのなら、米国は、PLOとの真剣な討議を行うべきだ。

パレスチナ人民の皆さん、民族の大義に忠実に闘おう。世界中の人民の権利を防衛しよう。そのため闘う人は、我々の同胞である。我々は、生活の困難に屈せず、植民地主義との闘いを堅持する。パレスチナ民族の当然の権利を回復するまで、闘う。

占領軍は、報復しているが、これは、狂犬病のように、自らを蝕んでいく。奴らには、指導者もなく、規律もない。パレスチナの町、村、キャンプを襲撃していくが、我々を怯ませることはできない。

シオニストは、労働現場でも、パレスチナ人労働者の賃金、食料を掠め取る。現在、「身分証」として強要しているのは、パレスチナ人

労働者を屈伏させるのが狙いだ。だが、我々は、民族の力を動員し、この後一年、二年、何年かかるとも闘い続け、蜂起をさらに根づかせる。

確かに、カサブランカ・サミット決議は、PLOが一貫して分裂してきた結果、パレスチナ人民は、この二〇年間苦悩してきたことである。今度は、決議を実行し、イスラエルの最大の友である米国への政治的経済的圧力をかけてほしい。

米国は、PLOとの接触レベルを上げ、対話をスティック・アップし、内実を作るべきである。これ以上の蜂起の拡大を止めさせたいのなら、米国は、PLOとの真剣な討議を行うべきだ。

パレスチナ人民の皆さん、民族の大義に忠実に闘おう。世界中の人民の権利を防衛しよう。そのため闘う人は、我々の同胞である。我々は、生活の困難に屈せず、植民地主義との闘いを堅持する。パレスチナ民族の当然の権利を回復するまで、闘う。

占領軍は、報復しているが、これは、狂犬病のように、自らを蝕んでいく。奴らには、指導者もなく、規律もない。パレスチナの町、村、キャンプを襲撃していくが、我々を怯ませることはできない。

シオニストは、労働現場でも、パレスチナ人労働者の賃金、食料を掠め取る。現在、「身分証」として強要しているのは、パレスチナ人

化しよう。犠牲祭の第二日目は、殉教者、負傷者、被追放者、被拘留者の家族を訪問しあつて、援助しよう。

七月一五日は、人民闘争戦線の創立記念日にあたる。これを記念して、闘争を強化しよう。

七月一九日は、パレスチナ国内外のパレスチナ人が、ハンガード・ストライキを行う日。国際的な教育、文化機関に対して、アンサールⅢを廃止させるよう訴える。ハンガード・ストライキは、朝五時から、夜の八時までやろう。子供達は、やらなくてもよい。

七月二〇日は、ゼネストの日。「選挙」策動を拒否し、真に自由で民主的な選挙を要求しよう。占領下での「選挙」に反対しよう。

七月二三日、二四日は、反占領闘争強化の日。

パレスチナの民族的統一の象徴、PLO、万歳！

パレスチナ国独立に向け、最先頭で闘うPLO、万歳！

一九八九年七月二日

PLO・蜂起民族統一指導部

連帯を行動で示そう。我々は、敵の前で団結する。敵の攻撃には、反撃しよう。いかなる困難をも引き受け、ガザの人々は屈伏しない。私も、ガザの人々の困難を座視しない。

シオニストは、新「労働証」、新「身分証」なるものを、ガザの人々に強要している。これは、人種差別的弾圧の一形態である。

英雄的なパレスチナ人民の皆さん！

パレスチナのすべてのモスラム教徒の皆さん、我らが愛するパレスチナの大地に接吻しよう。そして、一貫して闘争を強化しよう。そして、地のない人に貸そう。とくに、ジェニー地区の地主の皆さんに、それを訴える。

日めがら、一貫して闘争を強化しよう。そして、我らが愛するパレスチナの大地上に接吻しよう。峰起民族統一指導部（以降は、統一指導部とする）は、商人の皆さんに訴える。犠牲祭の前の二日間は、モスラム教徒のために、夕方六時まで営業してほしい。

統一指導部は、蜂起が二〇カ月に入るにあたり、次のことを訴える。

1. パレスチナ独立国を承認したギリシアの立場に感謝する。友人ギリシアの人民が、パレスチナの大義を支持している。パレスチナ国を未だ承認していない諸国に、訴える。ギリシアに
2. パレスチナ人民の皆さん、フランス革命二〇〇年にあたり、仏政府と仏国民に挨拶を送ろう。フランス革命は、自由、平等、博愛という価値を打ち建てた。
3. パレスチナ国に在住する全外国人は、パレ

スチナ国の来賓である。

4. シオニスト製品をボイコットし、パレスチナ製品を買おう。パレスチナ商人は、統一価格販売を行い、闇取引をやらないようにしよう。

5. 土地の余っている人は、適当な価格で、土地のない人に貸そう。とくに、ジェニー地区の地主の皆さんに、それを訴える。

6. 換金業者の皆さんに、訴える。換金所内で、統一換金レートで取引しよう。

7. 四八年ライン内の同胞に、訴える。ガザの同胞に対して、国際赤十字などを通して、財政的、食糧の援助を強化してほしい。

8. 統一価格での取引を、行おう。違反者は、攻撃部隊の制裁を受けるだろう。

9. 攻撃部隊、人民委員会の皆さんに、訴える。夜間警備を怠らないようにしよう。シオニストの命令を聞かないようにしよう。たとえ、射たれ、殴られ、逮捕されようと、シオニストの命令を拒否しよう。

10. 四八年ライン内での労働と交換の新「身分証」を拒否したガザの皆さんに立場に感謝する。村ぐるみで税金ボイコットしたペイト・サフルの皆さんにも、感謝する。

11. 国連総長、UNESCO事務総長、その他国際機関の責任者、およびバチカンに訴える。被占領地での教育機関閉鎖を続けるイスラエルに、圧力をかけてほしい。

イスラエルは、パレスチナ人民の民族的権利を記念して、闘おう。

七月七日は、昨年追放令を受けて以来、追放を待っているパレスチナ人と連帯の日。闘争を強化して、連帯を示そう。自由を尊ぶ世界中の人々に訴える。パレスチナ人民が受けている

チナ国があらゆる通りを、パレスチナ旗で埋め尽くそう。パレスチナ旗は、パレスチナ国の象徴である。

七月六日は、パレスチナの国旗の日。パレスチナの労働者との連帯を、それによって、示す。一日も早く占領を止めさせたため、全行動を強化しよう。

七月六日、四日は、パレスチナ労働者は、ガザの陰謀が敗退したことを、示す。

七月三日、四日は、パレスチナ労働者、蜂起の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。皆さんに、次の行動を呼びかける。

七月八日は、ガッサン・カナファーニ殉教の記念日。抗議の闘争を強化しよう。

七月九日は、ゼネストの日。蜂起二〇カ月目を記念して、闘おう。

七月一二日は、支援活動の日。農地に行つて耕し、農民を支援しよう。シオニストが破壊した家屋の再建を支援しよう。

七月一四日は、犠牲祭の始まりの日。犠牲祭の礼拝の後、デモを行い、殉教者の墓に参り、殉教者の家族を訪問しよう。そして、闘争を強化しよう。

の一つである教育について、無条件で、学校、教育施設を開けよ。

勝利の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。皆さんに、次の行動を呼びかける。

七月三日、四日は、パレスチナ労働者は、ガザの労働者との連帯を、それによって、示す。

四八年ライン内での労働をボイコットしよう。

七月六日は、パレスチナの国旗の日。パレスチナのあらゆる通りを、パレスチナ旗で埋め尽くそう。パレスチナ旗は、パレスチナ国の象徴である。

七月六日、四日は、パレスチナ労働者、蜂起の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。一日も早く占領を止めさせたため、全行動を強化しよう。

七月六日は、パレスチナの国旗の日。パレスチナの労働者との連帯を、それによって、示す。

七月三日、四日は、パレスチナ労働者、蜂起の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。皆さんに、次の行動を呼びかける。

七月八日は、ガッサン・カナファーニ殉教の記念日。抗議の闘争を強化しよう。

七月九日は、ゼネストの日。蜂起二〇カ月目を記念して、闘おう。

七月一二日は、支援活動の日。農地に行つて耕し、農民を支援しよう。シオニストが破壊した家屋の再建を支援しよう。

七月一四日は、犠牲祭の始まりの日。犠牲祭の礼拝の後、デモを行い、殉教者の墓に参り、殉教者の家族を訪問しよう。そして、闘争を強化しよう。

の一つである教育について、無条件で、学校、教育施設を開けよ。

勝利の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。皆さんに、次の行動を呼びかける。

七月三日、四日は、パレスチナ労働者は、ガザの陰謀が敗退したことを、示す。

七月六日、四日は、パレスチナ労働者、蜂起の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。一日も早く占領を止めさせたため、全行動を強化しよう。

七月六日は、パレスチナの国旗の日。パレスチナの労働者との連帯を、それによって、示す。

七月三日、四日は、パレスチナ労働者、蜂起の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。皆さんに、次の行動を呼びかける。

七月八日は、ガッサン・カナファーニ殉教の記念日。抗議の闘争を強化しよう。

七月九日は、ゼネストの日。蜂起二〇カ月目を記念して、闘おう。

七月一二日は、支援活動の日。農地に行つて耕し、農民を支援しよう。シオニストが破壊した家屋の再建を支援しよう。

七月一四日は、犠牲祭の始まりの日。犠牲祭の礼拝の後、デモを行い、殉教者の墓に参り、殉教者の家族を訪問しよう。そして、闘争を強化しよう。

の一つである教育について、無条件で、学校、教育施設を開けよ。

勝利の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。皆さんに、次の行動を呼びかける。

七月三日、四日は、パレスチナ労働者は、ガザの陰謀が敗退したことを、示す。

七月六日、四日は、パレスチナ労働者、蜂起の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。一日も早く占領を止めさせたため、全行動を強化しよう。

七月六日は、パレスチナの国旗の日。パレスチナの労働者との連帯を、それによって、示す。

七月三日、四日は、パレスチナ労働者、蜂起の日まで、統一指導部は闘い続けるだろ

う。皆さんに、次の行動を呼びかける。

七月八日は、ガッサン・カナファーニ殉教の記念日。抗議の闘争を強化しよう。

七月九日は、ゼネストの日。蜂起二〇カ月目を記念して、闘おう。

七月一二日は、支援活動の日。農地に行つて耕し、農民を支援しよう。シオニストが破壊した家屋の再建を支援しよう。

であったものが、一〇%に跳ね上がり、かつ、現在では、一五・二〇%もとられてしまうのである。シオニストが、ヨルダンからの現金持ち込み、空港からの持ち込みを厳しく制限しているので、高い手数料をはらって、しかも危険を犯しての送金ルートに頼らざるをえない。次は、被占領地でのヨルダン・ディナールの値崩れである。

しかし、『蜂起と愛国的製品』という著書を著したアブド・アル・サッタール博士によると、問題の所在、打開の方向は、次のようになる。「蜂起を堅持していくうえで、経済感覚は、最も重要である。それは、パレスチナ人が、占領から独自に生きていくために基盤となるのが経済だからである。シオニスト経済に組み込まれ、シオニスト経済に依存している限り、蜂起は、強固たりえない。パレスチナ人や、パレスチナ人家族が、経済的圧力に影響されないと云ふことは、ナンセンスである。現実には、大きく影響されている。しかし、経済的圧力に容易に屈する人間だ、飢えを堪え忍んでも、自分の周囲で起こることに対応しようとする人間がいる。なぜなら、人間は、物事に統制され、かつ、物事を統制していくからである。そして、革命的人間は、状況や、圧力に左右されるようなことはしない。楽観的な状況を切り開くことができないこともあるだろう。しかし、徐々に、自分自身、自分の住む社会を防衛しはじめるのである。占領に統制されるのを拒否するのなら、パレスチナ人民にとって重要なのは、まず、シ

オニスト経済からの独立を勝ち取ることである。そして、パレスチナ経済を、シオニストによる圧力をかわす条件を作っている。経済的独立を達成するために、我々は、愛国的生産に集中せねばならない。愛動員して生産し、かつそれを防衛しなくてはならない。愛神聖な愛国的事業である」

的であり、家庭経済の段階で、あるが、それが、逆にシオニストによる圧力をかわす条件を作っている。経済的独立を達成するために、我々は、愛動員して生産し、かつそれを防衛しなくてはならない。愛神聖な愛国的事業である」

## 資料②

## 蜂 起

ジュディア・サマリア、ガザの現状の地位の変化はない。  
この和平ニシアチブが網羅すべき事柄

- ①「イスラエル政府平和イニシアチブ」—〇〇項目
- ②文書の構成は、以下である。
- ③同イニシアチブの基盤
- ④イニシアチブの道筋と、応用について
- ⑤選挙問題について
- ⑥基本
- ⑦イスラエル国内に、イスラエル政府の政策的基本についての国民的合意と、支持が存在するという前提から出発している。
- ⑧イスラエルは、和平を求めている。キヤンプ・デービッドに基づく直接交渉によって和平を達成する努力を継続している。
- ⑨イスラエルは、ガザと、イスラエルとヨルダンの中間にあら地域に、パレスチナ国を建国するのには、反対する。
- ⑩イスラエルは、PLOとは、交渉しない。
- ⑪イスラエル政府の諸政策と一致しない限り、

を保証するような、相互に合意できる案を検討するには、

1. この文書は、アラブ諸国との戦争状態を終決させ、ジュディア・サマリア（注①）のアラブ人問題を解決し、ヨルダンとの和平締結、ジュディア・サマリア、ガザの難民キャンプ難民の諸問題を解決するために、イスラエル政府が政治的イニシアチブをとるためのものである。

2. 文書の構成は、以下である。

①この文書は、アラブ諸国との戦争状態を終決させ、ジュディア・サマリア（注①）のアラブ人問題を解決し、ヨルダンとの和平締結、ジュディア・サマリア、ガザの難民キャンプ難民の諸問題を解決するために、イスラエル政府が政治的イニシアチブをとるためのものである。

3. イスラエル国内に、イスラエル政府の政策的基本についての国民的合意と、支持が存在するという前提から出発している。

④イスラエルは、和平を求めている。キヤンプ・デービッドに基づく直接交渉によって和平を達成する努力を継続している。

⑤イスラエルは、ガザと、イスラエルとヨルダンの中間にあら地域に、パレスチナ国を建国するのには、反対する。

⑥イスラエルは、PLOとは、交渉しない。

⑦イスラエル政府の諸政策と一致しない限り、

を保証するような、相互に合意できる案を検討するには、

⑧イスラエルは、ジュディア・サマリア、ガザのアラブ・パレスチナ人に、暴力、テロ、恫喝のない自由かつ民主的な選挙を行うよう、提案する。

⑨交渉による和平過程を開始するため、イスラエルは、ジュディア・サマリア、ガザのアラブ・パレスチナ人である。ヨルダン、エジプトも、もし参加したい意向があるなら、参加招請されることもある。

⑩第二段階…（恒久的解決）

⑪交渉に参加する相互の交渉団は、イスラエル、ジュディア・サマリア、ガザのアラブ・パレスチナ人代表と、ヨルダンである。さらに、エジプトも、参加招請されるかもしれない。こうした交渉を通して、イスラエルとヨルダンとの和平条約が締結されるであろう。



シャロンの腹の上のシャミル

危機解決に向けては、レバノン市民内部の信賴回復の必要性が、第一の目的である。レバノンの最高の利益、レバノン人全員の利益実現を土台にして、レバノン人が、我々の提案した解決方式を、責任と勇気をもって実現するということから、現在の悲劇を乗り越えてほしい。（実力行使について）カサブランカで確認された全アラブの要請にもかかわらず、レバノンでは、実力行使、破壊、分断の事態が継続されている。これに、終止符を打たねばならない。我々は、こうした事態に失望するどころか、統一、和平、レバノンが世界に名を馳せた文化的飛躍、これらの実現こそ、レバノン人の熱望

資料(三)

レバノン危機

オラン声明

モロッコのハサンⅢ国王、サウジアラ

イド大統領の三人は、レバノン危機解決こ

第二回目の三国高等委員会をオランで開催

我々は、ラバトでの第一回高等委員会に於て

て、レバノン危機解決方式として承認した行動

員会特使（イブラヒミ）を派遣して、あらゆる

折衝、諮詢を行うよう要請してきたが、今回、

危機解決に向けては、レバノン市民内部の言

土台にして、レバノン人が、我々の提案した解

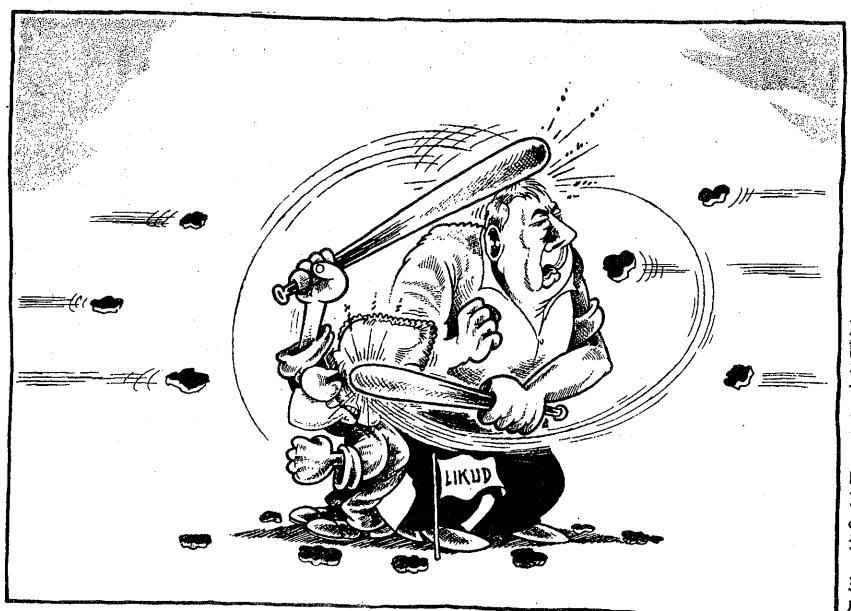
決戻式を責めと勇気をもって実現するというところから、現在の悲劇を乗り越えてほしい。

(実力行使について) カサブランカで確認さ

では、実力行使、破壊、分析の事態が繰り返され

て  
いる。これに、終止符を打たねばならない。

的飛躍、これらの実現こそ、レバノン人の熱望



## 暫定期間のエッセンス

10. 暫定期間のエッセンス

暫定期間の間、ジュディア・サマリア、ガザのアラブ・パレスチナ人は、自分たちのことを自己管理する自治を認められることになる。だが、安全、外交、そしてジュディア・サマリア、ガザ在住のイスラエル人に関する問題は、イスラエルが統括する。自治に関連する事柄は臨時合意締結に至る交渉によって検討、決定される。

11. 恒久的解決のエッセンス

恒久的解決へ向けた交渉において、各交渉団は、自らが必要とみなすあらゆる問題を提起する権利を認められている。

12. その交渉の目標は、以下である。

  - ① 交渉団が合意できる恒久的な解決案を作る
  - ⑤ イスラエルとヨルダンの和平、国境問題を解決する。

13. 和平イニシアチブ実行の詳細

まず、何よりも、イスラエルとジュディア・サマリア、ガザのアラブ・パレスチナ人が、交渉し、合意を作り出すことである。もし、エジプトとヨルダンが、その過程に参加希望するなら、上記の問題に関する交渉に参加することは、可能である。

14. ① 上記三地域から代表を選出する準備を、即開始する。選出された代表は、以下を行う。

  - ② この暫定期間の自治期間中、権威を持つ。
  - ③ 暫定期間開始から三年めに開始される恒久的解決にむけた交渉において、基本参加者と

恒久的解決のエッセンス

恒久的解決へ向けた交渉において、各交渉団は、自らが必要とみなすあらゆる問題を提起する権利を認められている。

③ その交渉の目標は、以下である。

④ 交渉団が合意できる恒久的な解決案を作る

⑤ イスラエルとヨルダンの和平、国境問題を解決する。

- (⑥) 選挙準備期間中は、ジュディア・サマリア、ガザ地区での暴力は、中止されねばならない。

選挙の中心問題として、地方選挙であるべきとする勧告案が出されている。その詳細は、後日の討議に委ねる。

15. ジュディア・サマリア、ガザから選出されたアラブ・パレスチナ人は、選挙実行の規定に従って、法的に承認された方法によって、イスラエルとの交渉を行うことができる。

16. 選挙は、秘密、自由、かつ民主的なものとする。

17. 上記に規定された通り、選出された代表は、五ヵ年予定の暫定期間の臨時合意を作るために、即交渉に入る。

18. この交渉の過程では、自治に関する諸問題、そして、自治を実現するための諸措置を明確化する。

19. そして、その後すぐ、だが、自治開始から三ヵ年以内に、恒久的解決にむけた交渉を開始する。

この交渉過程において、恒久的解決合意に調印するまでは、臨時合意で規定されたとおり、自治を継続する。

(編注) 一九八九年五月一四日の閣議票決で承認され、一七日の国会票決でも承認された。

注① イスラエルは、被占領地西岸を、「ジュディア・サマリア」と呼ぶ。

(②) エジプト政府のパレスチナ被占領地選挙一〇条件

(編注) 七月五日のエルサレム・ポスト紙上発表

① 選挙結果がいかなるものであれ、すべて、受け入れること。

② 國際監視団を、配置すること。

③ 被選出者に対しても、完全な訴追免除権を与えること。

④ イスラエル軍は、投票地区から撤退すること。

⑤ 決定した日程にしたがって、被占領地の最終的地位に関する交渉を開始すること。

⑥ 入植活動のすべてを、終決すること。

⑦ 選挙キャンペーンは、完全に自由であること。

⑧ 選挙日当日は、すべてのイスラエル人は、被占領地に立ち入らないこと。

⑨ 東エルサレムのパレスチナ人に、選挙権を与えること。

⑩ 事前に、イスラエルは以下の中東政策四原則を承認すること。

一一二四二、三三八に沿った解決  
一ピース・フォー・ランドの原則  
一地域のすべての国の安全保証  
一パレスチナ人に、政治的権利を承認する



・リクード中央委員会、「イニシアチブ」への四項目付帯事項を決定。

・ゴルバチョフ＝ミッテラン共同声明で、レバノンへの武器補給を控えるようアピール。

・米国務長官ベーカー、四項目付帯事項を批判。

七月六日（木）

・エルサレム近くでバス攻撃決死闘争、一四人が死亡。以来、極右シオニストの無差別テロ、激化。

七月八日（土）PFLP－GCのガッサン・力ナファーニ虐殺一六周年

七月九日（日）

・蜂起二〇九月目に入る。被占領地、ゼネスト。

## ■編 集 後 記

・こちらレバノンでは、六月よりも緊張が高まっています。「一方的停戦宣言」が発表されたものの、空港はあきません。東西ペイントの通過地点も、形だけあいたようなものです。

・本文の中でも述べているように、ソ連が乗り出しても、戦闘は納まりそうもない状態です。アウンの砲弾は、ヘカーにも打ち込まれています。戦闘激化のために、これまでペイルートに残っていた人々まで、疎開せざるをえない状態になりました。

・語るに落ちた宇野のあれこれが、新聞、ラジオで、ばんばん流されています。どの友人も、

「あれは、何だ？」首相は、あんなものなのか？

・人民に打倒されるのは、時間の問題だな」と、言うのです。

今年に入つてから、テンノー、リクルート、

TOKYO後記  
旅先で金がなくなると、心細いものだ。

大韓航空機が北アフリカ・リビアのトリボリ空港近くで墜落した事故の翌日、急に現場へ飛ぶことになつた。お金が足りなくなればカードがあると安易に考えたのがいけなかつた。「テロ国家」のらく印を押され、

米国などから厳しい経済制裁を受けている国で、アメリカン・エクスプレスやVISAカードは通用しない。

四日目には金が足りないことに気づいた。さあどうしようか。そんな時に、毎日乗っていたタクシー

の運転手、アマールが言つた。「金がないのか、じゃ、おれが払つてやる。タクシー代もいいよ。一年か二年後にまた来たら、返してくれればいい」

これまでアラブの国を回つてそんな親切な運転手に会つたことがない。こちらが目を丸くしていると、本

当にレストランで払おうとする。四二歳、九人の子がいるというアマールは、一月十二時間働いて、子どもを全員大学に入れるとがんばつていて。苦しい生活な

のに申し訳ないが、タクシー代だけでもお情けにすがろうかと考えた矢先に、レバノンの人質事件取材ですぐ戻れとの指示がきた。「テロ国家」というコワもて

の表看板に似合わず、リビアの庶民は純情で義理人情に厚いという。できぱきと仕事が進まないお役所には

必ずぶん腹も立つたが、人々はどこかおつとりしてい

る。心優しい運転手に空港まで送つてもらいながら、私はすっかり、リビア庶民の味方になつていていた。

・この号が読者の皆さんに届く頃レバノン情勢は、まだ混沌としているでしょう。でも、その

中から、今までと違うものが生まれるでしょう。どういうものにするかは、闘い方次第です。

右は九月十四日付A紙の「特派員メモ」である。伊藤律さんの死亡からJRAとの交流が明るみで不思議に思う人々が多くつた。「テロリスト」「テロ国家」などという「らく印」や先入観からは納得できないらしい。素直に状況をみたり、現実をつかむことなのに。学ぶことの第一歩なのに。